

巻頭言

プロフェッショナルと対価



代表取締役専務
竹村 寧

第五十八回国民体育大会「NEWわかふじ国体」が当地静岡県内で開催され、県勢は郷土の期待を一身に担って大健闘し天皇・皇后杯を獲得するなど有終の美を飾った。それぞれの選手の健闘を称えるとともに、これだけの大きな大会を成功裡に収める為長い期間準備され、運営にご尽力された関係者の方々に對して敬意を表したい。

前回静岡県で開催されたのは四十六年前の昭和三十二年で浜松では皇太子殿下（現在の天皇陛下）をお迎

えして佐鳴湖に於いて漕艇競技がおこなわれた。それこそ全国から選手が集まっておこなう「国体」は初めての大イベントであって私の地元（当時は入野村）でも村をあげての歓迎ぶりであった。当時は現在のように宿泊施設が整っていない為、宿泊の受け入れは大変だった様で殆どが民泊、私の実家でも大阪の高校生選手が期間中寝泊りしていた。彼等は爪の学生服に学帽といった出で立ちで本場にアマチュアらしくフレッシュな印象だったと記憶している。

あれから半世紀近く過ぎ現在はスポーツも多種、多様化して施設の充実と共に技術も進化し、例えばアマチュアと言えども場合によってはプロを凌ぐ場面も見られるまでに選手の幅も広がってきている。先日、女子プロゴルフで高校生の宮里選手が優

勝した（その後プロに転向）ことは象徴的な出来事であった。スポーツばかりでなくあらゆる分野において時としてアマがプロの技術を上回ることもある。そこで我々が生業としてしている仕事に当てはめてプロについて考えてみると、まずプロとアマの違いは単なる技術の優劣の問題ではなくお金を稼ぐ技術の問題だと判る。その道のプロはお客様にとって必要な「もの」やサービスを提供してその対価をいただき、一方アマチュアは自分の向上や趣味のためにおこなう、すなわち「アマは自分のため、プロはお客様」のためにということが原点であり最大の相違点だと思える。このことは当たり前のように聞こえるが、いざ本当のプロフェッショナルの仕事を実践しようとするとは大変難しい。なぜなら「お客様に必

要なものを提供して対価をいただく」ことは今までの我々の経験に照らしてもたいへんに難しいからだ。我々が生活するのに必要なお金は「プロとしておこなった仕事の対価」としてお客様からいただくが、プロとして生活をしている限りはずっとこれからもお客様から対価をもらい続けなくてはならないからだ。そのことが難しいのであって我々建設業の仕事の場合は社内外においても充分な協力がなければとても実現することはできない。難しいことだからこそ社内においてはそれぞれが知恵を出し協力し合って、また助け合って対価（お金）を頂き、それを分かち合う必要があると思う。

表紙の写真
浜松北病院 病棟（療養型）
増築工事

表彰

各方面での活動が対外的に評価され社外から表彰という形で、この9月に4件の受賞がありましたので、ご紹介させて頂きます。

第11回静岡県優秀施工者

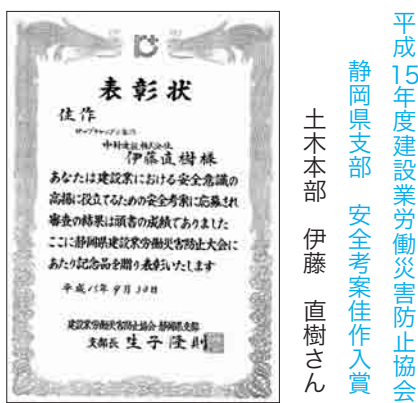
静岡県知事顕彰

☑フィールドサービス

中田 春雄さん



平成15年度建設業労働災害防止協会
静岡県支部 支部長表彰（功績賞）
管理本部 松村 俊吾さん



平成15年度建設業労働災害防止協会
静岡県支部 安全考案佳作入賞
土木本部 伊藤 直樹さん

社団法人日本建築学会
日本建築学会優秀卒業論文賞
建築本部 杉山 史典さん

